

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991800018		
法人名	社会福祉法人 いわれ会		
事業所名	ぬくもりの郷グループホーム		
所在地	奈良県磯城郡川西町吐田94番地		
自己評価作成日	令和4年5月25日	評価結果市町村受理日	令和4年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カオア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	令和4年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は広々とした空間になっており、談話室には大きな窓があり、開放的な集いのスペースになっている。近隣の畑や木々等の緑を毎日見ることが出来、季節の移り変わりを感じる事ができます。施設近隣の畑を管理されている地域住民の方との交流は開設以降続いており、野菜やお花などを頂いたり気軽に声をかけて頂いたりしています。GHの敷地内にも野菜作りができる畑があり、野菜の栽培や収穫、花の世話などを楽しんで頂いています。良い天気の日には全員で屋外へ出て外気浴を行っています。屋外での食事会も行ったりしていましたが、現在コロナ禍のため、中止としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは田園のあるのどかな場所にあり、ゆったりと過ごす事ができます。事業所のある敷地内にはデイサービスや社協、身体障害者施設があり協力体制を築きながら運営をされています。また、地域の自治会との協力関係もあります。日常的にも地域住民との交流もあり野菜や花を頂いたりすることもあり、安心して過ごせる環境にあります。ホーム自体の敷地内では家庭菜園で野菜を作り、食事に提供するなど楽しむ工夫をされています。スタッフについては同一法人の特養でのケアの実績を積んだスタッフが多く、重度化となっても安心してケアを受けることが出来ると感じました。また、ケアや暮らしの支援で入居者のペースに合わせて対応をされており、入居者の方も落ち着いて過ごされ、穏やかな笑顔が多いと感じました。ホームスタッフと入居者が一緒に暮らしを楽しみながら生活している雰囲気を感じ取れます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につく所に理念を掲示し、都度意識をしてケアに繋げている。また、ご家族様にも見て頂けるように玄関にも掲示している。	理念をスタッフが携帯。また、ロッカーや館内数カ所に理念を掲示し、日々の業務の中で理念に沿ったケアの実践に繋げられる様に意識付けをされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との交流があり、畑で出来た野菜やお花を頂いたりしている。地域行事についてはコロナ禍の為、中止している。	コロナ禍であり現在は中止となっていますが、自治会との協力関係もあり、以前は文化祭や神社の催し、子供会の神輿などの地域行事での交流や、地域の方のボランティアの受入れなどの交流が行われていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、式下中学校の職場体験は中止となり、看護実習は行ったが、途中で実習生が濃厚接触者になったため、中止となる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面での報告としている。話し合いは出来ていないため、サービスの向上に活かしていない。	昨年はコロナ禍で中止していましたが令和4年度には再開。2カ月に1回、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、社協、行政担当者、ご家族代表の参加があり、活動報告や事業報告が行われ、意見交換がなされサービス向上に努めておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場に毎月、指定管理月間報告書と介護度利用者報告書を提出している。町からの書面での通達や電話連絡、来所により相談を行いながら協力体制を築いている。	月間報告書を行政に提出しておられます。また、日頃から入居相談やショートステイの受入れ相談など行政や関係機関、地域からの相談に対応され、協力関係を築いておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月担当者が身体拘束廃止委員会の会議に参加し、他の職員は年2回の施設内研修に参加していたが、コロナ禍の為、会議も中止になることがあり又、年2回の施設内研修も中止になったため、資料の回覧として各自で学んでいる。	母体法人全体での身体拘束廃止委員会の出席や年に2回の研修に参加。ホーム独自としては3カ月に1回、研修を企画しています。日常ではスタッフがやっているケアに対してこの対応で良いのか、気づいたことに対しても話し合いの場を持ち身体拘束をしないケアへの意識付けがなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月担当者が虐待防止委員会の会議に参加し、他の職員は年2回の施設内研修に参加していたが、コロナ禍の為身体拘束廃止委員会同様中止となり、資料の回覧として各自で学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を1名の方が利用しており司法書士の先生が成年後見制度担当者となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約又は改定等の際は、電話連絡を行い来所時に書面と口頭で説明し、理解を得てから署名と捺印を頂いている。契約の締結時は、ご本人やご家族との面談をするが、自宅に訪問し説明を行うこともある		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置を行ったり、面会時に意見や要望をお聞きし、職員間で検討している。	家族の面会時や電話連絡をする時に意見や意向の確認をされています。また、聞き取った内容は入居者個々に作成した個人ノートに記載し、スタッフに周知が出来る仕組みを整えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞くGH会議を開催し、業務の改善を行っている。コロナ禍の為、会議を開催しない時は各自の意見を記入し、職員間で検討している。	毎月グループホーム会議を開催。日々の業務では引き継ぎノートに意見や提案を記載し意見を反映されています。その他、必要に応じて個人面談を行い職員の意見を聞きながら運営されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、同法人のDS管理者とGH管理者で勤務状況や健康管理を行っている。本部で開催している衛生委員会、主任者会議で報告、検討を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の得意分野を生かし、発揮できるような環境づくりを行っている。又、コロナ禍の為、研修には行けていないが、資料の回覧により各自で学び、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本部の各種サービスの職員や外部の方と、情報を集め発信し、ケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様と面談を行い、生活歴や現在の生活状況の聞き取りを行っている。その情報を活用し、関わり、耳を傾ける事で不安や要望を聞き出せる環境づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始までの間にご家族様に来所して頂き、施設入所の説明や生活歴の聞き取りを行っている。入居後もコミュニケーションを図る事で関係作りを行い、信頼関係へ繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明の際、他施設サービスの種類や役割等をお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までしてこられてきた衣食住を手伝って頂き共に行っていたが、コロナ禍の為、食事の手伝いは中止し職員で対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時にご本人様の現状を伝え、ご家族様の思いもお聞きし、協力もお願いしながら共に支えていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、馴染みの人や場へ行けていないが、忘れる事が無いように会話の中に取り入れている。	コロナ感染状況に合わせて関係継続の支援に努めておられます。訪問時は短時間ではありますが面会も可能となっています。コロナ禍以前は、ご家族の協力を得ながら美容院への外出やご自宅への外泊、知人の面会など関係継続支援をされていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を行うテーブル席やソファの座席は入居者同士のトラブルも無く、1人1人が安心できる場所となるように入居者同士の関係性に配慮した席の位置にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、ご家族様から相談があれば対応して協力体制を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様から聞き取りを行い、思いや希望を把握する。意思疎通の難しい方は、表情や言動から汲み取るようにしている。	日常の会話やご家族との話題を参考に意向の把握に努めておられます。希望により買い物に出かけるなど希望要望に沿った対応に心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様が話せる方とは聞き取りを行い、話せない方はご家族様からの情報を下に生活歴を把握し、アセスメント表の作成を行い職員間で情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調面や表情を確認し、小さな変化は支援経過別紙又は、個人ノートに記録して職員全体で把握してケアに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の生活状況や特記事項を下にご本人様、ご家族様等で話し合い、ご本人様に適した介護計画を計画作成担当者が作成している。	6カ月に1回見直しと更新が行われています。家族の意向を確認し、心身の状態に合わせた計画を作成しモニタリングがなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人様の日々の状況や実践したことを個別記録表に記録し、職員間で情報共有を行い介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況の変化があれば、その都度ご家族様に説明を行い、話し合いの場を持ち協力体制を整えながら、ニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣りにある同法人のデイサービスに地域ボランティアさんの来訪時に参加したり、こども園の園児さんと交流を持ち、楽しみを持っていたが、現在コロナ禍の為、参加や交流は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、協力医の往診があり。9名の内、3名は入居前からのかかりつけ医にご家族様と受診。必要な際は書面で情報提供を行い又、他病院への受診時も必要の際はご家族様と職員で付き添っている。	協力医療機関から月1回の往診があります。何かあれば24時間受診、往診等も可能です。歯科については必要時往診での対応も可能です。元々のかかりつけ医への受診はご家族の協力を得ながら対応をされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が毎日、全員のバイタルを測定している。健康状態を相談し、必要があればご家族様や協力医に連絡を行い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供(サマリー作成)を行い、退院時には退院カンファレンスに参加。入院中に面会を行い、ご家族様と退院後についての話し合いを行っていたが、コロナ禍の為、電話連絡を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前、ご家族様に方針について説明をされており、身体の変化や重度化の傾向がある場合にはご家族様と話し合いの場を持ち、必要なサービスを説明し、不安の無いように連携を行っている。	重度化となった場合について入居時に話をされています。また、状況に合わせてご家族と話し合いを重ね対応を協議されています。ホームでの看取りに関してもご家族と十分話し合いが行われ、対応出来る範囲で可能となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。急変時や事故発生時に落ち着いて対応出来るように定期的な研修に参加していたが、コロナ禍の為、参加できず。各自で勉強し、対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練をぬくもりの郷全体で行っている。又、緊急連絡網や地域の協力関係者の整備を行っている。	年に2回、ぬくもりの郷全体での防災訓練を実施。ホーム独自では年に1回避難訓練が行われています。また、有事の際は自治体との連絡・協力体制があり、避難場所への誘導等の協力体制が整備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもあるようにその人の人格を尊重できるように1人1人に合ったケアを心がけている。又、個人情報の重要性を認識し、適正な保護が出来るよう職員間で都度意識し、注意を行い対応している。	法人全体での年間計画にあるプライバシーに関する研修会に参加。また、日々の対応の中でその都度指導したり、職員同士が声を掛け合いながら対応をされています。	訪問中、トイレへご案内する際に他の入居者へ気づかれない様、さりげなくお誘いしプライバシーへ配慮した対応に関心しました。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話をする時間を持ち、ご本人様からの思いや希望が聞き取れるように又、ふとした瞬間の言葉や表情を見逃さないようにしている。言葉掛けを行い、自己決定ができるようにケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休憩の時間やテレビの視聴、過ごしたい居場所をご本人様に確認しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択ができる方はして頂いている。衣替えはご家族様に協力を依頼し、ご本人様が好んでいた衣類や物等を持参して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様から聞き取りを行い、月に1~2回程度、食べたいものや好きな物を献立にして、楽しく食事をして頂いている。コロナ禍のため、準備や片付けは中止し、味覚、嗅覚、視覚で楽しんで頂いている。	昼食は併設施設の厨房での調理。朝夕はホームで調理がなされています。またホーム内の菜園で採れた野菜を使ったり、意向に合わせてたこ焼きをしたり工夫しながら対応をされています。コロナ禍前は外食や手作りランチを作ったりもされていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主に栄養士が作成した献立表で食事提供している。1人1人に合った食事量、食事形態で対応している。水分も1人1人に合った形態で対応し、確保は出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後の歯磨き、昼食後のうがいを行い、トイレ後にも手洗いの後に都度うがいを行っている。夜間は義歯を預かり洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、排泄周期を把握。失敗しないでトイレで排泄が出来るように支援を行っている。夜間はポータブルトイレを設置し、安全に排泄動作が出来るように見守りを行っている。	排せつパターンを把握し個々のペースに合わせて出来る限りトイレでの排せつに心がけ、日中はオムツ対応の入居者もトイレでの排せつを支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操等で体を動かしたり、バランスの良い食事とこまめに水分を促し、便秘予防に努めている。個々の排泄周期を把握し、タイミングに合わせてトイレ通いをして自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後からいつでも入浴できるように浴室を管理している。その日の清潔状況やご本人様の希望に合わせて入浴を行っている。	基本的には週2回の入浴となっていますが、希望により随時対応が可能な体制を取っています。また、季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯など楽しんで入浴が出来る工夫をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度調整や照明コントロールをして、出来るだけ使い慣れた寝具を持ち込んで頂き、安眠出来るように支援をしている。起床や就寝時間は個々の習慣に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルを作成し、服薬内容や作用を把握できるように事務所に設置している。飲み忘れや飲み残しが無いように服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様やご家族様からの情報より、生活習慣を把握し、好みの作業を取り入れたりと、その方に合った環境づくりに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話から外出を聞き出せるように意識して交流を行い、実現できるように支援をしていたが、現在コロナ禍の為、外出はできていない。	敷地内の家庭菜園での土いじりや日光浴、近隣の散歩など日常的に行われています。また、コロナ禍前は大衆演劇やドライブ、花見など希望要望を汲み取り楽しんで頂ける様外出機会を企画しながら支援されていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い物の際は、各自財布を準備し自分で支払いが出来るように支援をしていたが、現在コロナ禍の為、お金の所持や使うことの支援は行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な場合は電話連絡をして頂いている。又ご家族様、ご友人様宛に年賀状作成の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方と作る壁飾りや季節感のある生け花や雛飾りなどの置物を設置している。又、太陽光が室内に入るように窓や居室ドアを開閉、新鮮な空気と適温で過ごせるように換気や冷暖房具を活用して室内環境を調整している。	リビングは広々とした開放感があります。窓からの自然光も十分あり、窓から木々の緑も見えて、居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員で集まれる居場所や、少人数で過ごせる居場所をソファやテーブルで確保し、独りの居場所も自身の部屋で過ごして頂けるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある寝具や家具、食器、、家族との写真を設置している。又、ご家族様にも自宅で使用されていた物をGHでも利用して頂ける旨を説明している。	入居者の使い慣れた道具や趣味の道具の持込み等も可能です。居室の窓も大きく採光は十分あります。また、ベッドは備え付けの介護用ベッドが完備されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、手すりを設置しており、その人の力に応じた行動を見守り、安全に過ごせるように工夫して生活リハビリを支援している。		